

往生極楽院、阿弥陀三尊坐像

この堂には、国宝に指定されている阿弥陀三尊像があり、986年に恵心僧都と妹の安養尼が父母の菩提のために建てたと考えられています。1143年に再建されました。

阿弥陀堂としても知られる、変わった形の屋根は、ひっくり返された船体に似ており、中にそびえる像が収まるように設計されています。

堂にはまた、阿弥陀の坐像があり、右手を「来迎院」のポーズで伸ばし、歓迎と心配事からの解放を示しています。祈りを捧げる人の前には、像と目線が合う位置に、座布団正確に置かれています。

阿弥陀像の右側には、死者を横たえる蓮台を持った観世音菩薩が安置されています。左側には、勢至菩薩が合掌しています。どちらの菩薩も大和座りとして知られる前かがみのポーズで座っています。

堂の天上は何世紀にもわたる植物油のすすで黒くなっていますが、菩薩や天女の元の画像が見える箇所もいくつか残っています。2006年には、カラフルな天上画を完全に再現した新しい施設が近くにオープンしました。このデザインには、楽器を演奏している10人を含めた48の菩薩が描かれており、天国でのみ咲く花の花びらに囲まれた空中に天女たちが飛びかっている。